



①ドイツパラリンピック柔道チームの事前合宿の受け入れに関する覚書の締結式。仕事での通訳はこれが初めて。②謙信KIDSでのドイツ料理体験。この日のメニューはマウルタッシュェ（ドイツ風水餃子）。③上越に来るときにドイツの大学の友達からもらった愛用のエコバッグに、手製のドイツ文化紹介カードなどを入れて学校訪問へ。④学校訪問では、クイズなどを交えて楽しみながらドイツ文化を紹介。⑤JCVの収録。ヤニックさんが出演するコーナーは8月いっぱい放送。⑥クリスマス前に実施したOpen MUJでの「Deutschland×Joetsu City」。トークショーは人気がありほぼ満席。

令和元年8月に上越市に着任しました。ドイツでは夏でも平均気温が18度くらいなので、暑さにびっくりしました。着任直後に、ドイツパラリンピック柔道チームの事前合宿の受け入れに関する覚書の締結式で通訳をしたのですが、とても暑い中だったのでスーツの中が汗だくになりました。学校訪問をはじめ、子どもたちとの活動はとても楽しい思い出です。特に、小学生の皆さんは反応も大きく、好奇心旺盛でいろいろと質問してくれました。子どもたちと関わるのは日本では上越が初めてでしたが、

パラリンピックに関わることでできるのはもちろん、新幹線が通っていて交通の便が良いし、冬には趣味のスノーボードもできると思ったからです。

**小学校訪問、ドイツチーム受け入れはどれも楽しい思い出です**



ヤニックさんの故郷・ボン市の街並み。ペートーヴェンの生まれ故郷でもある。



令和4年6月7日  
有田小学校6年生の  
皆さんと



特集

# ドイツと上越の 架け橋となって

ディーツ・ヤニックさん、3年間の活動を終え帰国へ



※姓、名の順に記載

**Dietz Yannick ● ディーツ・ヤニック (31)**

1990年(平成2年)生まれ。ドイツのノルトライン＝ヴェストファーレン州ボン市出身。ドイツ文化の情報発信や、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた事前合宿でドイツ人選手のサポートなどを担う国際交流員として、令和元年8月に着任。

ドイツ文化の情報発信や、東京2020オリンピック・パラリンピック出場のドイツチームとの連絡調整など、上越市とドイツの架け橋として尽力してくれたヤニックさん。これまでの活動の振り返りや上越市の印象などを聞いてみました。



その国に住んで、  
自分で経験してみたい

子どもの頃から、父と空手教室に行ったり、テレビで日本のアニメを観たりするなど、日本の文化に触れる機会があり、日本に興味を持っていました。

中学校の夏休みに5週間かけて、言葉や文化が異なるさまざまな国を旅行し、「やっぱり人間って面白いな」と感じました。訪れたどの国も、文化はそれぞれ全く違っていき、5週間あっても学びきれませんでしたので、「実際に住んでみて、どういうところなのか自分で経験してみたいな」と思っていました。

日本語を学んでいた大学院時代、大阪へ留学中にドイツの日本大使館で国際交流員を募集しているのを知り、面白そうだなと思い応募したのが上越市へ来ることとなったきっかけです。

新潟県(上越市)を希望したのは、オリンピックや子どもたちに面白そうな経験を提供できたのは良かったなと思います。

初めて私が発案、企画した「ドイツ語歓談会 クレーンシュナック」も思い入れがあります。「ドイツ語講座」とすると少しハードルが高いかなと思ったので、まずはフリートークで、なたでも気軽に参加しやすい場を作りたいと思い、企画しました。この会を通じていろいろな人とお会いし、お話ができましたし、私にとっても、より上越のことを知る機会になりました。参加者から「聞きたいことが聞けて、話したいことを話せたのが良かった」と